

会 告

第20回・21回西山記念技術講座開催のお知らせ

— テーマ：鉄鋼材料の環境脆化 —

第20回ならびに第21回西山記念技術講座を下記により東京ならびに広島で開催いたしますので多数ご来聴下さいませようご案内申し上げます。両講座は、同一内容のものであります。

— 東 京 (第20回) —

1. 期 日 昭和 48 年 5 月 17 日(木), 18 日(金)
2. 会 場 大和証券ホール (東京都千代田区大手町 2-6-4, 大和証券ビル 8 階)
TEL 03-231-0423

— 広 島 (第21回) —

1. 期 日 昭和 48 年 6 月 20 日(水), 21 日(木)
2. 会 場 広島商工会議所 (広島市基町 5 番44号)

3. 演題ならびに講師

第1日

9:30~12:00	環境脆化の機構に関する最近の進歩	名古屋工業大学	大 谷 南海男君
13:00~15:30	炭素鋼, 低合金鋼の応力腐食割れ	日本鋼管技術研究所	松 島 巖君
15:30~17:00	超高張力鋼の応力腐食割れ	金属材料技術研究所	金 尾 正 雄君

第2日

9:30~12:00	ステンレス鋼の応力腐食割れ	日本冶金工業川崎製造所	遅 沢 浩一郎君
13:00~15:30	鉄鋼材料の腐食疲労	日本原子力研究所東海研究所	近 藤 達 男君

4. 講演内容

環境脆化の機構に関する最近の進歩 名古屋工業大学 大 谷 南海男君

鉄鋼の環境脆化のうちでとくに重要なものは応力腐食割れと水素脆化である。前者を説明する機構としては、金属引力、環境のうち、どの因子を重視するかによつて諸仮説がある。後者においても、水素吸着説、水素ガス圧説、格子脆化説その他の諸説が提出されている。これらの仮説の長短について再検討してみたい。

炭素鋼, 低合金鋼の応力腐食割れ 日本鋼管技術研究所 松 島 巖君

炭素鋼, 低合金鋼の応力腐食割れにかかわる諸実験的事実, 現象, 理論を体系的にまとめ, これらとの関連において割れの実例を挙げて解析し, 応力腐食割れの診断法, 対策, 適性材料の選択について述べる。硝酸塩, アルカリ, 液体アンモニア, シアン, CO-CO₂ などによる応力腐食割れ, 硫化物などによる水素脆性割れを対象とする。

超高張力鋼の応力腐食割れ 金属材料技術研究所 金 尾 正 雄君

高力ボルト材, 低合金鋼やマルエージ鋼などの超高張力鋼などにおける応力腐食割れ現象の実例を示したのち, 感受性の評価法を紹介する。つぎに, 応力腐食き裂の発生と伝播に関連する要因, 破壊の微視的, 巨視的様相について述べる。さらに, 雰囲気, 温度, 応力状態など使用環境の影響, 組成, 組織, 冷間加工など材料の応力腐食割れ感受性に影響をおよぼす冶金学的要因について述べる。また, 防止対策についても若干触れたい。

ステンレス鋼の応力腐食割れ 日本冶金工業川崎製造所 遅 沢 浩一郎君

ステンレス鋼の実装置における応力腐食割れ防止のための経済的抜本策は見出されていないのが現状で, その湿食事例の過半数が応力腐食割れによるといわれている。そこで応力腐食割れ防止を念頭に置きながら, 応力腐食割れ事例, 各種ステンレス鋼の応力腐食割れに影響する環境および金属側因子具体的防止対策, 評価法などについて述べる。

鉄鋼材料の腐食疲労 日本原子力研究所東海研究所 近 藤 達 男君

腐食環境における金属材料の疲れ破壊をき裂の発生と伝播の二つの過程にわけて, とくに鉄鋼材料に対する関連研究分野の異なる視点に立ついくつかの説について述べる。さらに各論では, 工業的におこりうる具体的な材料と環境の組合せについて, 腐食疲労を支配する材料因子 (鋼の組成, 組織, 強度特性など), 力学的因子 (応力振幅, 波形, 変動速度など) および環境因子 (温度, 溶液または気体の腐食条件など) と, それらの相関について述べる。

5. 聴講無料 (事前の申込みは必要ありません)
6. テキスト代 2000 円
7. 問い合わせ先 日本鉄鋼協会編集課 Tel. 03-279-6021

日本鉄鋼協会役員

さる4月5日開催の第58回通常総会において、理事、監事および評議員の選挙が行なわれました結果次のごとく選任されました。本年度の本会役員は留任と合わせ次のとおりであります。(敬称略)

理事副会長
理事

不破 祐 渡辺 省三
(任期2年)

安藤 卓雄 岩村 英郎 加藤 栄一 加藤 健三 川合 保治 桑原 春樹
鈴本 禎一 高梨 省吾 高橋 忠義 田中 実 田畑新太郎 中川 龍一
細木 繁郎 宮本 博

監 事

(任期2年)

評 議 員

石原 重利 (任期2年)
阿部 秀夫 秋田 正弥 荒木 透 有村 康男 伊藤 伍郎 伊藤 正夫
伊藤 隆吉 家永 英吉 石井 健一郎 石原 幸男 池上 平治 池田 正
今井 光雄 里 記 磐城 恒隆 岩村 協三 打浪 吉朝 小田 助男
小野 健二 大竹 正 中都 四郎 大元 博 大矢根 大器治 桂 寛一郎
金子 信男 河西 健一 河上 益夫 河田 和美 木下 禾大 木村 利秋
菊池 浩介 草川 隆次 熊田 健三郎 小出 秋彦 河野 典夫 越田 左多男
五弓 勇雄 後藤 俊信 佐野 幸吉 齋藤 恒三 阪本 勇 沢 繁樹
沢村 企好 沢村 宏 三本 木貢治 清水 正博 塩沢 正一 島村 哲夫
下山 田正俊 貢藤 恒 進藤 貞和 末光 秀雄 杉沢 英男 樺山 正孝
鈴木 正敏 住友 元夫 角野 尚徳 関 文雄 染野 檀 多賀谷 正義
田尻 惟一 田中 正一 高瀬 孝夫 高畑 幸男 高村 仁 熊衛 竹入 信
谷川 正男 津田 久 都留 松男 外島 健吉 丹羽 貴知 蔵 西 啓博
中島 長久 中野 邦弘 中浜 川正義 平井 将一 林 本宗一郎 町田 業太
野田 郁也 長谷川 達三 長谷川 将一 丸山 益輝 三河 定男 盛 利貞
蜂谷 茂雄 松下 長久 松田 耕平 村田 貞之助 八木 武 山岡 重
松岡 正雄 宮下 格之助 八木 貞之助 山岡 武 山岡 重
三井 太信 門間 二郎 山内 二郎 横山 金三

(留 任)

理 事 会 長 事

中野 宏 井上 道雄 内山 道良 大谷 正康 岡 莖 真 川田 多佐雄
青山 芳正 小谷 守彦 佐藤 良住 田中 良平 高木 秀夫 館 充
河合 正雄 福田 宣雄 堀川 一男 松本 豊 吉田 道一

監 事 員

足立 彰 相原 満寿美 浅田 幸吉 荳 沢 大義 荒牧 寅 伊木 常世
伊佐 重輝 井上 利行 井上 敏郎 井上 正義 井上 亮 池島 俊雄
市川 忍 今井 勇之進 入 一二 達二 西 亮 梅沢 邦臣
越後 正英雄 小野 武夫 尾崎 良平 大 西 侃 岡林 邦夫
川又 克二 奥村 虎雄 鍵山 正吉 角野 正二 大 森 一 岡田 満雄
小林 佐三郎 小林 清一郎 古賀 繁一 河野 文彦 木下 藤 健二 亀田 永政雄
西郷 吉郎 坂尾 弘 阪田 純雄 作井 白富 佐藤 田 裕宣 佐藤 知雄
設楽 正雄 下平 三郎 芝崎 邦夫 白井 富 須藤 一 菅野 三郎
芹沢 正誠 田中 四郎 田村 高馬 立花 保夫 太 宰 三 菅野 喜三
高石 敬治 筒井 統一 高野 廣 豊島 清三 田 英二 土居 万吉 武田 喜三
辻畑 敬治 中山 龍夫 中村 正久 中村 信夫 中島 泰祐 中 山 育雄
中山 忠行 西川 政一 西原 守 橋口 隆吉 橋本 宇一郎 中島 正樹
永江 種三 日向 方 檜山 一 堀田 正之 廣 慶 太 久 生 雄 富 士 崎 成 一
早川 俊三 藤野 忠次 松原 与三 松原 次男 南 森 崎 山 本 和
藤永 陽之助 松谷 裕康 森 源次郎 森 一美 安 本 和 山 本 和
村尾 時之助 安田 安次郎 吉田 進

新 JIS 鉄鋼機器分析方法講習会開催案内

主 旨 本年 3 月 1 日に鉄および鋼の光電測定法による発光分光分析方法 (JIS G 1253) および鉄および鋼のけい光 X 線分析方法 (JIS G 1256) の日本工業規格が改正および制定されました。
 これらの JIS は鉄鋼機器分析の活用の現状に照して適用範囲の拡大と適用効果の増大を狙ったものであります。そこで、利用技術の向上と JIS の普及をはかる目的で、第一線に活躍中の一流技術者によるこれらの JIS の主要点、改正点の詳細な解説と適用上のポイントについて懇切な指導を行なうため、この講習会を開催します。

なお、受講者には新 JIS およびこれを分かり易く解説したハンドブック (鉄鋼の工業けい光 X 線分析方法) をテキストとしてお渡しします。

- 1. 開催日 昭和 48 年 6 月 1 日 (金) 9:25~17:00
- 2. 開催場所 鉄鋼会館 801 号室 (東京都中央区日本橋茅場町3-16 鉄鋼会館 8 階) 電話 03-669-4851
 交通 国電東京駅下車徒歩 15 分 地下鉄東西線茅場町下車徒歩 5 分
 “ 日比谷線茅場町または西八丁堀下車徒歩 5 分
- 3. 共 催 (社)日本鉄鋼協会, (財)日本規格協会, (社)日本分析化学会
- 4. 後 援 通商産業省工業技術院
- 5. 募集人員 200 名 (ただし定員になりしだい締め切ります)
- 6. 講習料 5000 円 (テキスト代を含む)

8. プログラム

9:25~ 9:30	開会あいさつ	日本鉄鋼協会常務理事	吉 田 道 一
9:30~11:35	鉄および鋼の光電測定法による発光分光分析方法の JIS 改正のあらまし	川崎製鉄(株)千葉製鉄所管理所 分析課長	岡 崎 和
11:40~12:30	鉄および鋼のけい光 X 線分析方法の JIS 解説		
	(1) 新 JIS 制定のあらまし	新日本製鉄(株)製品技術研究所分析研究室 主任研究員	渡 辺 俊 雄
13:30~15:15	同 上	日本冶金工業(株)川崎製造所 研究部次長	望 月 平 一
	(2) 本法の適用方法		
15:25~16:35	同 上	大同製鋼(株)中央研究所研究部 第二研究室長	伊 藤 六 仁
	(3) 本法の補正系の決定方法		
16:35~17:00	質疑応答		

- 9. 申込締切日 昭和 48 年 5 月 21 日 17 時着信まで
- 10. 申込み方法 下記申込書 (1 人 1 枚) に必要事項を記入のうえお申しこみ下さい。入金次第聴講券をお送りいたします。
- 11. 払込み方法 郵便振替 (振替番号 東京 193) または銀行振込み (第一勧業銀行本店または三菱銀行大手町支店)
- 12. 申込み先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階

および問い合わせ先 日本鉄鋼協会技術部標準課講習会係 Tel. 03-279-6021 (代)

.....切.....取.....線.....

新 JIS 鉄鋼機器分析方法講習会参加申込書

- 申込締切日 昭和48年5月21日 (月) 17時着信まで
 振込方法 (○で囲って下さい)
 1. 郵便振替 2. 第一勧業銀行本店 3. 三菱銀行大手町支店

ふりがな 氏 名.....	No. _____
勤務先お よび職名.....	
勤 務 先 所 在 地.....	(〒)
連 絡 先.....	(TEL)
送 金 額 5000 円	(送金予定日)

JIS 鋼材規格講習会

主旨：近年、国民経済の発展と消費水準の向上により、鉄鋼の需要分野は急速に拡大され、鋼材の用途はますます多岐にわたっております。

このような趨勢に応じて鉄鋼材料は、より高度の品質あるいはすぐれた新製品が開発されつつあります。

そこで当会では、JIS の鋼管規格が改正された機会に、JIS の鋼管・ステンレス鋼・構造用鋼材・耐熱鋼・特殊鋼・薄鋼板について、それらの使用者側産業界の設計担当者、資材購買担当者を対象に JIS の鋼材規格の正しい解釈の仕方、要求性能にマッチした JIS 鋼材の正しい選び方と使い方について解説し、利用技術の向上と JIS の普及に寄与するために、この講習会を開催します。

開催地および開催期日：

東京 昭和48年6月26日(火)・27日(水)	サンケイ会館 5階国際ホール
名古屋 昭和48年7月2日(月)・3日(火)	愛知県中小企業センター 4階第1会議室
大阪 昭和48年7月3日(火)・4日(水)	大阪府商工会館 7階講堂
広島 昭和48年7月4日(水)・5日(木)	広島商工会議所ビル 1階 101号室
福岡 昭和48年7月5日(木)・6日(金)	電気ビル別館 6階ホール

共催：(財)日本規格協会 (社)日本鉄鋼協会 ステンレス協会

後援：工業技術院
プログラム

	時 間	演 題	内 容
一 日 目	9:30 ～10:25	鋼材関係 JIS の現状と将来	体系的にみた JIS の現状 今後の制定・改正計画
	10:35 ～12:30	鋼管の選び方と使い方	鋼管規格の見方と使い方(鋼管規格分類体系・用途別規格分類)、 鋼管の製造法と特徴、配管用・構造用等の鋼管の選び方使い方
	13:30～ ～16:30	構造用鋼材の選び方と使い方	規格制定の経緯および規格内容の特徴、体系上の位置、外国規格 などとの対比、構造用鋼の使用上の問題点および注意する事項、 今後の課題等
二 日 目	9:30 ～12:00	ステンレス鋼・耐熱鋼の選 び方と使い方	ステンレス鋼規格および耐熱鋼規格の見方と使い方(分類体系お よび特性) ステンレス鋼・耐熱鋼の特性と選定上の着眼点、要求 性能にマッチしたステンレス鋼・耐熱鋼の選び方使い方
	13:00 ～14:25	薄鋼板の選び方と使い方	冷間圧延薄鋼板および熱間圧延薄鋼板の選び方と 使い方
	14:35 ～16:30	特殊鋼の選び方と使い方	特殊鋼規格の見方と使い方(特殊鋼の分類と特性、化学成分)、特 殊鋼の特性と選定上の着眼点、要求性能にマッチした特殊鋼の選 び方と使い方

聴 講 料：一般 1名 8,000 円 (テキスト含)

官庁・地方自治団体職員および学校教職員 1名 6,000円 (テキスト含)

定 員：東京 300 名、名古屋 150 名、大阪 200 名、広島 100 名、福岡 100 名

使用テキスト：(1) 講師執筆テキスト
(2) JIS ハンドブック鉄鋼・1973 年版

講 師：(五十音順・敬称略)

青木 朗 新日本製鉄(株) 木村 勲 新日本製鉄(株) 越野 健司 トヨタ自動車工業
(株) 小滝 昌治 日本鋼管(株) 酒井 寿彦 住友金属工業(株) 佐藤 完往 東洋工業
(株) 莊林 久男 日産自動車(株) 仁木誠之助 川崎製鉄(株) 能丸 勇 愛知製鋼(株)
原田 憲二 日本金属工業(株) 福原 章男 新日本製鉄(株) 村治 敏明 大同製鋼(株)
矢倉林之助 (株)神戸製鋼所 八巻 雄三 三菱製鋼(株) 吉武 進也 日本冶金工業(株)

申込および連絡先

東京会場の方は 日本規格協会 標準課 電話 (03) 583-8001 (代) 内線 19・53
〒107 東京都港区赤坂 4丁目 1-24

名古屋会場の方は 日本規格協会 名古屋支部 電話 (052) 221-8316 (代)
〒460 名古屋市中区 2丁目 6-12 白川ビル内

大阪会場の方は 日本規格協会 関西支部 電話 (06) 261-9928
〒541 大田市東区本町 4丁目 4-1 本町野村ビル内

広島会場の方は 日本規格協会 広島支部 電話 (0822) 21-7023
〒730 広島市基町 5-44 広島商工会議所ビル内

福岡会場の方は 日本規格協会 福岡支部 電話 (092) 76-4226
〒810 福岡市中央区渡辺通 2丁目 1-11 十八銀行ビル内

石原・浅田研究助成金交付候補研究募集要領

申請締切日・昭和 48 年 7 月 31 日

本会では鉄鋼の学術または技術に関する研究を補助育成する目的をもって、石原・浅田研究助成金制度をもうけ、昨年度より助成金を交付しております。ついては今年度の助成金を交付すべき候補研究を下記要領により募りますので、交付希望研究者に協会所定の様式をもって応募して下さい。

本会には、昭和 33 年以来故石原特殊製鋼株式会社社長の寄贈による石原米太郎研究資金が設定されておりましたが、さらに昭和 46 年 4 月株式会社神戸製鋼所から寄贈された浅田長平記念基金の毎年の金利の過半も研究助成金にあてることになりました。そこで、これらをつつにまとめて石原・浅田研究助成金として昭和 47 年度から交付することとしたものです。

記

1. 交付対象

鉄鋼の学術または技術に関する研究に従事する個人またはグループとし、研究者の年齢は原則として 40 才以下とする。(大学院博士課程学生も含める。)

2. 研究期間・内容

研究期間は助成金の交付を受けてから 2 年間とし、鉄鋼に関する学術あるいは技術への寄与が期待され、かつ着眼点または研究手法が独創的な研究とする。

3. 交付金額

総額 200 万円以内 (1 件約 40 万円、5 件程度を予定している。)

4. 申請方法

1) 申請者 研究者本人またはグループ代表者

2) 申請方法 協会所定の申請書にその内容を記載し申請するものとする。記載内容の概略項目は次の通りである。

- (1) 研究課題
- (2) 研究者氏名、所属、他
- (3) 研究の目的
- (4) 研究の実施計画、方法
- (5) 研究の特色、独創的な点
- (6) 従来の研究経過、成果または準備状況
- (7) 同種研究の国内外における研究状況
- (8) その他

3) 申請書請求および送付先

〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 日本鉄鋼協会総務部宛

4) 申請締切り 昭和 48 年 7 月 31 日

5. 選考

本会研究委員会が選考内規に基づいて選考を行なう。

6. 交付決定通知

交付が決定した時は研究者名・研究課題を会誌に会告し、同時に研究代表者に連絡する。

7. 助成金の交付

本研究の助成金は研究者の所属する機関に経理を委託する。研究代表者が大学院博士課程の学生の場合には学生の指導教官を通じて所属大学に経理を委託するものとする。

8. 報告

本研究助成金を受けた研究者は、必ずその研究成果について 3000 字程度の報告書を作成し提出しなければならない。(研究期間終了後 1 カ月以内) また研究成果について発表する際には助成金を受けた旨明示する。

印刷物として発行された場合には、その送付をもって報告書に代えることができる。

なお、助成金についての経理報告は省略することができる。

日本鉄鋼協会東海支部

特別講演会ならびに冶金反応談話会開催案内

本会東海支部では下記により、特別講演会ならびに冶金反応談話会を開催いたしますので、多数御聴講下さいますよう御案内申し上げます。

記

<特別講演会>

日時 昭和48年6月9日(土) 13:00~15:00

場所 名古屋市昭和区御器所町
名古屋工業大学 共5講義室

題目および講師

「連続鑄造(または造塊)プロセスにおける問題(仮題)」
ニューヨーク州立大学(バッファロー)
化学工学科教授 プロセス・メタラージー・センター長
シッカリー氏 (Prof. J. Szekely)

<冶金反応談話会>

特別講演会終了後、下記により討論会を開催いたしますので御参加下さい。

日時 昭和48年6月9日(土) 15:30~17:00

場所 名古屋工業大学 講堂会議室

題目およびスピーカー

「凝固プロセスに関する基礎問題について」
シッカリー氏 (Prof. J. Szekely)

昭和48年度三菱財団自然科学研究助成応募要項

1. 助成の趣旨

自然科学の基礎分野における重要かつ独創的な研究を助成して、わが国基礎科学部門の一層の向上、発展を期待するものであります。

このため本年度は下記の分野を重点的に助成の対象とすることにいたします。しかし、その他の分野における研究も、勿論選考の対象から除外するものではありません。

また、この助成金は研究達成のためにもつとも有効に使用されるようにいたしたいので、その用途はとくに制限いたしません。(詳しくは直接お問い合わせ下さい)

2. 重点対象分野

- (1) 表面、薄膜、微粒子など低次元物質系の物理の基礎的研究。
- (2) 械限状態のもとでの物理・化学現象の研究。
- (3) 化学および物性分野における新しい原理による新測定方法の研究。
- (4) 乱流の基礎構造に関する実験的研究。
- (5) 動物行動の感覚生理学的研究。
- (6) 生物活性物質の生物変換機構に関する研究。
- (7) 生体防衛機構に関する基礎的研究。
- (8) 臓器の機能、構築に関する基礎的研究。

3. 助成の金額と期間

イ. 金額 総額約1億円 1件3千万円以内(本年度は15件以内を目標とします)

ロ. 期間 1年を原則とします。研究計画の都合上継続を必要とする場合は、3年計画まで認めるところがあります。ただし、この場合も毎年改訂計画書にもとづき選考いたします。

4. 応募方法

当財団所定の応募用紙に必要事項をご記入のうえ、当財団宛ご送付願います。応募用紙はご請求あり次第お送りいたします。

5. 応募締切日 昭和48年5月31日(木)

6. 助成金の贈呈 昭和48年10月9日(火)

7. 申込書送付先

財団法人 三菱財団 〒100 東京都千代田区丸の内2丁目6番2号
丸ノ内八重洲ビル 309号室 電話 東京(03)214局5754番

日本鉄鋼協会東海支部学術講演会(研究発表)講演募集

本会東海支部では下記により学術講演会(研究発表)を開催することになりましたので、多数御応募下さいますよう御案内申し上げます。

記

日 時 昭和48年6月14日(木) 9:00~17:00

会 場 愛知県中小企業センター (〒450 名古屋市中村区堀内町4丁目31番地)

学術講演会応募方法

適宜用紙に講演題目、氏名、勤務先、連絡先、スライドの要不要明記のうえ5月1日(火)までにお申し込み下さい。尚共同研究者のある場合は講演発表者に○印を付して下さい。申込者には当方よりオフセット用原稿用紙をお送り申し上げますので、規定の様式により概要原稿を作成し5月31日(木)(必着)までに下記支部宛御返送いただきます。

申 込 先 〒464 名古屋市中村区不老町 名古屋大学工学部金属鉄鋼工学教室内
日本鉄鋼協会東海支部

金属学会セミナー

金属材料の疲労——ミクロとマクロの結びつき

第1次 日時：昭和48年7月31日(火)～8月1日(水)

場所：発明会館地下ホール(東京都港区芝西久保明舟町17 電話 03-502-0593)

第2次 日時：昭和48年8月30日(木)～31日(金)

場所：大阪科学技術センター(大阪市西区靱 1-118 電話 06-443-5321)

聴講料(テキスト代を含む)

定 員 第1次 250名、第2次 150名(ただし定員に達し次第締切ります)

会 員 6,000円

(維持員会社の社員を含む)

申込要領

下記申込書の各欄ご記入の上、聴講料を添え(現金書留、為替、振替仙台 5592 のいずれでもよい)お申し込み下さい(受理次第聴講券をお送りいたします)。

非 会 員 10,000円

学 生 会 員 2,000円

学 生 非 会 員 3,000円

(協賛学協会の会員は会員聴講料とします)

申 込 先 980 仙台市大町1丁目1番13号(東活ビル)

申込締切 昭和48年7月15日

日本金属学会 電話(0222)23-3685

日 程

第1日

9:30 1. 序 論(問題の提起、疲労破壊の実例、機械的、材料試験的研究、
実働荷重による疲労・高温疲労・クリープとの組合せなど) 都立工科短大 川田 雄一

11:10 2. 鋼の疲労現象と組成、介在物の影響(I)
(化学成分がどのように疲労に影響するかという道筋) 東大工 荒木 透

13:00 3. 鋼の疲労現象と組成、介在物の影響(II) 東大工 荒木 透

14:00 4. 鋼の強靱性と疲労破壊(熱処理組織を含めて金属の組織がどのように疲
勞に影響するかという道筋、破壊靱性との関係をも含む)

16:30 質疑応答

第2日

10:00 5. 金属物理学的研究(主としてX線的研究、電子顕微鏡的研究および転位論的研究)

東北大工 辛島 誠一

13:00 6. 疲労に及ぼす環境効果(腐食疲労など)

京大工 遠藤 吉郎

14:30 7. ミクロとマクロの結びつきについての一般と材料強度学的研究

(ミクロとマクロを結合した破壊の力学の概念、破壊の速度論的研究

(転位動力学的研究も含む)、確率過程論的研究、疲労き裂発生と伝播

の研究など)

東北大工 横堀 武夫

16:40 質 疑 応 答

お し ら せ

日本鉄鋼協会九州支部では支部行事として学術懇談会の設置を推進し、すでに下記のとおり2グループの後援をしております。

この両グループは定期的に会合を開催しておりますが、これについて興味をお持ちの方のご参加を歓迎いたしますのでご希望の方はそれぞれの連絡先あてお申し込み下されば開催通知を送付いたします。

記

I 金属材料科学懇談会

連絡先……福岡市東区箱崎 千812 九州大学工学部応用原子核工学科 北島 貞吉
Tel. [092]-(64)-1101 (代表)

II 製錬反応談話会

連絡先……福岡市東区箱崎 千812 九州大学工学部鉄鋼冶金学科 小野 陽一
Tel. [092]-(64)-1101 (代表)

第 20 回 腐食防食討論会プログラム

とき：昭和48年5月14日(月)～16日(水) ところ：東京大手町農協ビル

第1日：14日(月) 9:00～16:00

A 会場	ステンレス鋼に対するインヒビターの吸着	慶大工	○小林	賢三
	不飽和アミンの防食効果	慶大工	○荒牧	国次
	E PMAによる腐食抑制剤の研究(1)リン酸エステル処理効果	兵工試	○中川	哲
	硫化ソーダ溶液中におけるCuの腐食挙動	栗田総研	○平野	昭英
	ピロリン酸銅溶液における銅回転円板電極のカソード分極挙動	北大工	○金野	英隆
	高電流密度における鋼のアノード分極挙動	東工大工	○神田	基
	Alのアノード酸化におけるアニオン効果と水素ガス発生機構	都立大工	○左近	啓一
	Alの陽極酸化皮膜の誘電的性質	金材研	○福田	芳雄
	Alの多孔質アノード酸化皮膜の化学構造とその成長機構	北大工	○高橋	英明
	ZrならびにTiにおける水素化物層の成長過程について	北大工	○諸住	高
B 会場	外部電源法の陽極効果による電食防止について	日本鋼管	○市野	瀬博美
	迷走電流による埋設管の過防食の抑制について	日本防蝕	○星野	九平
	ポリエチレンスリーブ法による埋設管路の防食法			
	特に電気防食との並用について	久保田鉄工	○長尾	正三
	一地区の土壌の腐食性の解析	大阪ガス総研	○小川	智司
	埋設塗覆装鋼管ホリディ部の局部電流密度の実験室的評価	日本鋼管技研	○松島	巖
	マグネシウムの交流腐食	東京ガス	○三浦	周敏
	アルミニウム流電陽極の研究(2)	日本防蝕	○田村	祐一
	推進器の電気防食について	鉄道技研	○石川	清
	直角タンク内の電位分布	三菱重工長崎研	○植田	健二
C 会場	硫酸塩還元菌による鋼の腐食と陰極防食効果	中川防蝕	○白水	司
	孔食の現象論的解析	東大工	○辻川	茂男
	ステンレス鋼のすきま腐食に及ぼす絶縁材のイオン交換膜的性質の影響	味の素中研	○山辺	稔
	濃厚電解質水溶液における水素イオン濃度とpH	横浜国大工	○高橋	正雄
	ステンレス鋼の耐孔食性に及ぼす鋭敏化熱処理の影響	日本冶金	○岡登	信義
	耐孔食ステンレス鋼の開発	新日鉄技研	○野口	栄
	高クロムステンレス鋼における孔食とクロム欠乏層について	新日鉄基礎研	○小川	洋久
	高クロムステンレス鋼の不動態皮膜と孔食	新日鉄基礎研	○小川	洋久
	Cl ⁻ を含む硫酸酸性溶液中の純鉄の食孔について	川鉄技研	○大和	康二
	Al合金の孔食に関する一考察	神戸製鋼中研	○藤原	和雄
高温中性水溶液中におけるニッケルの電気化学挙動	金材研	○藤井	哲雄	

第2日：15日(火) 9:00～16:00

A 会場	大気腐食における無定形オキシ水酸化鉄の役割	室蘭工大	三沢	俊平
	半浸漬垂直回転円板を用いた炭素鋼の大気腐食に関する研究	九工試	○齋藤	明夫
	連続廃ガス洗浄式ガス腐食試験法(SO ₂ , H ₂ S)	山崎精機	○横井	康夫
	鋼板の酸化膜に与えるSb, MnおよびSの効果	新日鉄技研	○前田	重義

	塩水噴霧試験溶液中におけるクロムメッキの腐食挙動	阪府大工	○古川	直治
	亜鉛系被覆の防錆性能について	鉄道技研	○桐村	勝也
	塗装亜鉛鉄板の腐食	新日鉄基礎研	○山本	一雄
	温水中におけるアルミナイズト鋼の耐食性	東芝総研	○竹林	純子
	数種のモルタル中におけるガルバナイズド鉄筋の腐食挙動	阪府大工短	○宮瀬	淳
	Zn メッキ PC 鋼線のコンクリート環境中の腐食疲労	東大工	○辻川	茂男
B会場	鋼板の酸洗時に発生する pitting corrosion	新日鉄技研	○広前	義孝
	鋼矢板構造物の腐食(2)	港湾技研	○善	一章
	I 形鋼に対する塗料の防食効果	港湾技研	○善	一章
	低合金鋼の組織の腐食に及ぼす影響	日本鋼管技研	○西村	隆行
	電縫鋼管の耐孔食性に及ぼす合金元素の影響	新日鉄製品研	○加藤	忠一
	腐食反応による鋼の表面あらさの解析	川鉄技研	○清水	直人
	モアレ縞を応用した不均等腐食面の計測	東大工	○増子	昇
	塑性変形材の腐食挙動に及ぼす表面微小欠陥とアニオンの影響	青学大理工	○竹本	幹男
	沸騰伝熱面腐食の温度変化および伝熱効果	北大工	○石川	達雄
	表面反応律速の腐食反応における伝熱効果	北大工	○石川	達雄
	高温脱気塩水中の軟鋼および低合金鋼の腐食挙動(3)	理大理	○高崎	新一
C会場	海水を用いた動滞水実験装置による金属の腐食および防食の実験検討	電力中研	○青木	敬雄
	鉄表面の塩素イオンの E S C A による解析	阪工奨	○佐藤	幸弘
	偏光解析法による鉄表面不働態皮膜の研究	北大工	○佐藤	教男
	水酸化鉄皮膜のエリプソメトリーによる微小部分の解析	金材研	○小玉	俊明
	18-8ステンレス鋼素地の光学定数のエリプソメトリーによる研究	東北大工	○松田	史朗
	エリプソメトリーおよびファラデーインピダンス同時測定による			
	金属皮膜厚の解析	鐘紡中研	○吉村	卓二
	中性溶液中における Fe-Ni 合金の不働態皮膜	北大工	○大竹	康久
	酸性ないしアルカリ性溶液中における鉄の不働態皮膜	北大工	○野田	哲二
	酸素発生領域における Ni 酸化物について	小山工高専	○奥山	優
	水酸化ニッケル沈殿膜のイオン輸送現象	北大工	○坂下	雅雄
	人工海水中における Fe-Ni 合金の腐食	京大工	○倉知	三夫
	ジルコニウムの腐食電位振動に対する pH 効果	北大工	○諸住	高
第3日:16日(水) 9:00~16:00				
A会場	海水中の電気化学腐食による 2, 3 の金属材料	大阪電通大	○水野	兼雄
	非定常分極法による鉄の腐食に関する研究	北斗電工	○呂	秋成
	アルミニウムと銅との接触腐食の研究	都立大工	○森	健実
	475°C 脆化 Fe-Cr 合金および Fe-Cr coupling 電極の電気化学的挙動	室蘭工大工	○水戸	正治
	各種ステンレス鋼の耐 H ₂ SO ₄ 性	新日鉄技研	○上田	全紀
	ごみ焼却炉のボイラ管腐食特性	日本鋼管技研	○酒井	潤一
	耐熱合金のパナジウムアタックと Al 被覆による防食効果	都立大工	○宮川	大海
	金属チタンの硫黄蒸気中での硫化反応	東大工	○太田健一郎	
	Fe-Mn 合金の硫化物スケールの解析(第2報)	北大工	○西田	恵三
	B-Nb ₂ O ₅ 被膜の生成による Nb-Mo 合金の高度な高温耐酸化性	東大工	○山脇	道夫
	Ni-Cr 合金の高温酸化におよぼす Ce 添加の影響	東北大金研	○天野	忠昭
B会場	純銅線の応力腐食割れについて	東京商船大	○鈴木揚之助	
	Al-Zn-Mg-Cu 合金の応力腐食割れ寿命と負荷方向との関係	古河アルミ日光	○斎藤	寿雄
	鉄鋼中の水素透過率に及ぼす温度および組織の影響	金材研	○小林	豊治
	硫化水素水溶液中における軟鋼の水素脆性の電気化学的研究	東北大金研	○川嶋	朝日
	高張力鋼の遅れ破壊における腐食の役割	新日鉄基礎研	○村田	朋美
	高張力鋼の液体アンモニア腐食割れについて	東レ名古屋	○今川	博之
	MgCl ₂ 液中の 18-8 鋼の SCC に及ぼす温度, 濃度および付加応加の影響	東北大金研	○杉本	克久
	23% Cr フェライト質ステンレス鋼の応力腐食割れにおよぼす			
	添加元素の影響	東北大金研	○上出	英彦
	高温 42% MgCl ₂ 溶液中におけるステンレス鋼ひずみ電極の挙動	北大工	○柴田	俊夫
	ステンレス鋼の応力腐食割れにおける塩化マグネシウム			
	溶液試験に関する一考察	住金中研	○工藤	赳夫
	高温濃厚塩化物溶液中における Hastelloy C の応力腐食割れ	三井造船玉野研	○熊田	誠

新刊紹介

データシートシリーズ刊行のお知らせ

本会標準化委員会データシート部会では、わが国で製造される鋼材について、(1)使用者がその特性を理解し、利用しやすいような強度に関するデータ、(2) JIS 原案作成に必要なデータ、あるいは(3)標準鋼材の物理的ならびに機械的諸性質に関するデータなどを収集してまいりました。収集データは整理・総括のうえデータシートシリーズとして順次刊行することとし、このたび下記データシートを刊行いたしました。

収集されておりますデータシートは従来各製造所、研究所においてそれぞれ実験された結果あるいは課題目的のために関連機関で共同実験された結果が整理編集されております。鋼材の製造者、使用者を問わず、わが国の鋼材についての標準的な性質の全貌を知る唯一の資料として、有効に利用いただきますようご案内申し上げます。

- 書名および価格
- 1) データシートシリーズ1 「質量効果を考慮した機械構造用鋼の機械的性質」
第1集 S35C, S45C, S55C, SCM3, SCM22
価格 会員 600円, 非会員 1000円 (送料本会負担)
 - 2) データシートシリーズ2 「伸び値と試験片寸法効果」
価格 会員 550円, 非会員 950円 (送料本会負担)
 - 3) データシートシリーズ3 「高温引張試験」
価格 会員 1400円, 非会員 1800円 (送料本会負担)

申込方法 書名、部数、送付先、名記のうえ代金を添え現金書留にてお申し込み下さい。

申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階 日本鉄鋼協会編集課 (03-279-6021)

- 内容
- 1) データシートシリーズ1
S35C, S45C, S55C, SCM3, SCM22 の各鋼種について、(1)化学成分、(2)焼ならしおよび焼入焼もどしかたさ、(3)焼ならし後の機械的性質、(4)焼入れ焼もどし後の機械的性質、(5)質量効果(焼ならし)、(6)質量効果(焼入焼もどし)の順に整理されております。
 - 2) データシートシリーズ2
41 kg/mm² 級炭素鋼、50 kg/mm² 級炭素鋼・Si-Mn 鋼・耐候性低合金鋼、60 kg/mm² 級非調質低合金鋼・調質低合金鋼の伸び値と試験片寸法効果
 - 3) データシートシリーズ3
溶接構造用圧延鋼材: SM41, SM50, SM50Y, SM53, SM58
圧力容器用鋼板: SPV24, SPV32, SPV36, SPV46, SPV50
ボイラ用圧延鋼板: SB42, SB46, SB49, SB46M, SB49M, SB56M
高圧配管用炭素鋼鋼管: STS35, STS38, STS42, STS49
高温配管用炭素鋼鋼管: STPT38, STPT42, STPT49
上記鋼種についての
(1)下降伏点あるいは0.2%耐力と温度との関係、(2)引張強さと温度との関係、(3)破断伸びと温度との関係、(4)破断絞りとの関係、(5)(下降伏点あるいは0.2%耐力)/(室温における引張強さ)と温度の関係の順に配列。

第4回日・ソ製鋼物理化学合同シンポジウム 公開講演開催のお知らせ

日本鉄鋼協会主催のもとに、1973年5月31日、6月1日、6月2日の3日間、第4回日・ソ製鋼物理化学合同シンポジウムが開催され、ソ連より10名程度の学術使節団が来日されます。つきましては、この機会に会員の皆様のために下記要領で、公開講演を開催致しますので、多数ご参加下さるようご案内申し上げます。

記

1. 開催日時: 昭和48年6月2日(土) 13:30~16:00
2. 会場: 経団連会館 国際会議場(11階)
3. 演題および講師:
Prof. V. I. Yavoyskii: New Investigations of the Steel Deoxydation Processes, Formation and Changes of Nonmetallic Inclusions during Steel Ingot Cooling
Prof. N. A. Vatolin: Investigation of Physical and Chemical Characteristics and Structural Properties of Liquid Metals Alloys
4. 入場無料: 来聴歓迎

